

ソポクレス『オイディプス王』におけるオイディプスと「知」 —エウリピデス『バッカイ』を参考にして—

Oedipus and Knowledge in Sophocles' *Oedipus Tyrannus*:

An Examination with reference to Euripides' *Bacchae*

梶村 哲矢

KAJIMURA, Tetsuya

摘要

This paper aims to examine the nature of the knowledge possessed by Oedipus in the *Oedipus Tyrannus* of Sophocles. It is evident from the fact that he has defeated Sphinx that he surpasses other human beings in knowledge, but he cannot avoid the fulfillment of Apollo's oracle. This fact suggests that the knowledge of Oedipus is nothing more than that of the human level, which with its own limitation is no match for the divine knowledge. The latter half of this paper focuses on the use of the Greek words meaning knowledge used in this play. They can be classified into four major groups marked respectively by the stems of *soph-*, *gnō-*, *phron-*, and *oid-*. The *soph-* group features the highest form of knowledge and is mainly used to imply the divine one. The knowledge of Oedipus does not belong to this group, but to the *gnō-* group whose attribute is its own limitations. The differentiation of human and divine knowledge is strengthened by the examination of Euripides' *Bacchae*, which also deals with the serious confrontation of the human and the divine.

キーワード：オイディプス 古代ギリシアと知 人間の知 神の知 デイオニュソス

Keywords: Oedipus, Knowledge in Ancient Greece, Human Knowledge, Divine Knowledge, Dionysus

1. はじめに

『オイディプス王』（以下OT）でソポクレスが描き出したオイディプス像は様々に解釈されるが、本論ではそのオイディプスが「知」⁽¹⁾を体現する人物であり、その知を駆使することによって危難を切り抜ける英雄として描かれていると捉える。そして、彼が高い「知」の力を持っていても神託の成就からは逃れられなかった点に注目し、人間の「知」は神託、あるいは神との関係において何らかの限界が設けられていたのではないかという点を考察してみたい。

オイディプスと「知」という論点に関しては、OTの先行諸研究で何度か言及されている。その中でも代表的なものとしてKnox(1957)が挙げられる。Knoxのこの著作はソポクレスが描いた

オイディプス像に焦点を当てて、「オイディプスとは何であるか」という点を論じた大部のオイディプス論である。特に第三章ではオイディプスと「知」との関係を $\gamma\nu\acute{\omega}\mu\eta$ (intelligence)、 $\phi\rho\omicron\nu\nu\tau\iota\varsigma$ (thought)、 $\omicron\iota\delta\alpha$ (to know) といったギリシア語原文中で「知」を表す言葉に着目することで、人間の知と神との関係を論じている。Knoxは、オイディプスの知を $\gamma\nu\acute{\omega}\mu\eta$ と規定し、あくまでも‘human intelligence’であって神の知とは区別されるものと見なしている。

そして、同様な論点についてはSegal(2001)の研究を挙げることができる。このSegalの著作の特徴は、OTでのオイディプス像がどのようにして形作られ、文学に限らず哲学などの分野において今日まで与えた影響を詳細に論じている点にある。Segalの研究ではオイディプスと「知」との関係について、劇の序盤で展開される予言者テイレシアスとオイディプスとの対話を主に分析することで論じている。SegalもKnoxと同じようにギリシア語原文で「知」を表す言葉に注目をして人間の知と神との関係を論じている。

以上の先行研究と本論での目的は非常に近く、論考を行うにあたって参考になる点が多い。しかし、「知」を表すギリシア語を分析するこれらの先行研究においても、OTの作品全体を体系的に分析したものは管見の限りない。この点について、ギリシア語に着目してより精緻な議論を展開するためには、作品のテキスト全体を分析し、「知」を表すギリシア語の使用件数や使い分け等を検討する必要がある。

したがって、本論ではOTから読み解ける人間の知の限界を論証するために、作品のギリシア語原文テキスト中で「知」を表す語を抽出し、その意味の広がり、使用頻度等に注目して分析結果を示す。そして、これらの分析を通して、この作品の中で描かれている人間の知と神との関係を明らかにしたい。

そして、本論ではOTでの人間の知と神との関係を考察するにあたって、エウリピデスによる『バツカイ』(以下Ba.)も参考にする。それは、この作品でも人間の知と神との関係が主要なテーマとして描かれているからである。Ba.ではバックス教崇拝が蔓延るテーバイを舞台にして、主人公ペンテウスと人間に扮したディオニュソス神とが、ディオニュソスを正式に神として受け入れるか否かで争う。本論では、ペンテウスが神であるディオニュソスに対抗するために彼自身の「知」を用いており、この「知」を頼りにしてディオニュソスが神であるということを頑なに拒んでいると捉える。

Ba.でのペンテウス像をこのように解釈すれば、そこからはオイディプスの場合と同様に、人間の知と神との関係を考察する際に有益な手掛かりが得られるはずである。さらに、後に論じるようにペンテウスとオイディプスの二人の「知」には異なる点もある。この差異にも注目することで、より一層この問題の本質が明らかになるであろう。したがって本論ではOTを主題としつつも、適宜Ba.を参考にして論を進めていきたい。

2. オイディプスと「知」について

この劇の冒頭では、テーバイの国を疫病が襲い、この禍がかつてテーバイを襲ったスピックスと重ね合わされる。この場面ではオイディプスのもとに嘆願に訪れた神官が、かつてオイディプスがスピックスを退治したことを次のように表現している（OT 37-39）⁽²⁾。

καὶ ταῦθ' ὑφ' ἡμῶν οὐδὲν ἐξειδῶς πλέον | οὐδ' ἐκδιδαχθεῖς, ἀλλὰ προσθήκη θεοῦ | λέγη νομίζη θ'
ἡμῖν ὀρθῶσαι βίον.

（それも、あなたは我々からまったく何も聞いておらず、また教えられたわけでもない。

しかしあなたはご自身で語り、信じているように、神の助け⁽³⁾によって我々に命を取り戻してくださったのです。）

神官は、オイディプスによるスピックス退治の際に、彼がテーバイの人々から何かを聞いたり教えてもらったりすることなく自力でスピックスの謎を解いたことを強調している。

そして、オイディプス本人も、自分が知の力でもってスピックスを退治したという認識を示している。彼はテイレシアスとの対話の中で、自分がライオス王殺害犯だと名指しされたため、怒りを込めて自分の王権の正当性を主張する。その箇所ではオイディプスはスピックス退治について以下のような発言をしている（OT 396-98）。

ἀλλ' ἐγὼ μολῶν, | ὁ μὴδὲν εἰδῶς Οἰδίπους, ἔπαυσά νιν, | γνώμη κυρήσας οὐδ' ἀπ' οἰωνῶν μαθῶν·
（しかしこの私、何も知らないオイディプスがやって来て、鳥による予兆を知ることによってではなく知恵を見つけて⁽⁴⁾私がスピックスを阻止したのだ。）

こうした発言からは、オイディプス本人もスピックスを知の力でもって退治したという自己認識を持っており、そしてその功績を誇っていることが読み取れるであろう。

だがこの劇のオイディプスには、優れた知力だけではなく弱点も描かれている。テイレシアスと対話を重ねるうちに、オイディプスはクレオンが自分から王権を篡奪するために謀を企んでいるのではないかと考え疑心暗鬼になる。そして、その後オイディプスはクレオンに直接嫌疑の言葉をかけるのである。以下は嫌疑をかけられ憤慨するクレオンを宥めるコロスの長の台詞である（OT 523-24）。

ἀλλ' ἤλθε μὲν δὴ τοῦτο τοῦνειδος, τάχ' ἂν δ' | ὀργῇ βιασθὲν μᾶλλον ἢ γνώμη φρενῶν.

（しかし、そのような非難が出たのは恐らく怒りに駆られてのことで、分別ある知恵によってではないのでしょうか。）

この発言からはオイディプスの持つ知が時に自身の怒りの強さに負けてしまうことがあるということが指摘できる。

これらの箇所からは、オイディプスという人物が周囲から、さらには自分自身によっても知の優れた力を持つ者という認識がなされていたことが分かる。しかし、オイディプスは単なる知者として描かれているわけではない。確かにオイディプスはスピックスの謎を解いた高い知

力を持つ人物として描かれている。そして、この作品の展開には欠かすことのできない彼の真実の追及を止めない姿勢には知的探求力といったものも描かれていると言えよう。しかし反対に、その知の力のために他者の意見には耳を貸さないような分別に欠ける態度をも示している。

そして、オイディプスはその知の力に信を置き過ぎるがために、彼は怒りにまかせて行動する面があり、彼には分別といった重要な事柄が見えなくなっているのではないか。このように、人間の中でも最も優れた知を持つと考えられるオイディプスであっても、そこには欠点も見出せるのである。この劇でのオイディプス像からは、優れた知を持っていてもそれは万能ではなく、あくまで人間のものであるという点が読み取れるのである。

オイディプスは、自分の知に信を置き、かつて自身やライオスに下されていたアポロンの神託の成就を頑なに認めようとはせず、最終的に破滅を迎えるのである。この点からは、どれほど優れた知者であっても有限な人間である以上は「知らない」ことがあり、人間の知の力では神や神託には対抗することができないという点を読み取ることができる。オイディプスの場合は自分の出生の秘密がそれに該当する事実であり、神に等しい知を持つテイレシアスはこの事実を知っているという点で知の力ではオイディプスを凌いでいる。これが人間の知と神の知との違いである。先述したように、*Ba.*でも人間と神との関わりを「知」の観点から読み解くことができる。以下からは両作品での「知」の描かれ方を比較してみたい。

3. 『バツカイ』での「知」をたよりに

*Ba.*は劇中に神（ディオニュソス神）が直接登場するという設定のため、人間の知と神との関係という点では、読み解きやすい箇所が多く参考になる作品である。この劇が「知」と関連があると言えるのは、劇中で何度も繰り返し登場する $\sigma\omega\phi\rho\nu\epsilon\iota\nu$ （分別をもつ）やその関連語が知と不可分のものであるためである。

「分別」とは純粋に理屈だけで完結する概念ではなく、その時々周囲の状況によって変化する倫理的な要素をも含む、「知」の「正しさ」の概念である⁽⁵⁾。*Ba.*ではこうした知と分別をめぐるやり取りが、ディオニュソス崇拝の問題を通じて劇の始めから終わりまで何度も繰り返される。この劇のテーゼと言ってもよい台詞が第一スタシモンにおいてコロスによって歌われている (*Ba.* 395⁽⁶⁾)。

$\tau\acute{o}\ \sigma\omega\phi\acute{o}\nu\ \delta'\ \o\upsilon\ \sigma\omega\phi\acute{\iota}\alpha,$

(小賢しいことは知恵ではない、)

この台詞で言及されている $\tau\acute{o}\ \sigma\omega\phi\acute{o}\nu$ とは、ペンテウスを筆頭とした人間の「賢さ」のことであり⁽⁷⁾、少なくともペンテウスの賢さには分別が欠けているため神には対抗できないということが言われているのであろう。

ペンテウスはオイディプスと同じように、周囲の人物たちから意見されながらも自分の知に

信を置く態度を変えないことなく、その知を頼りにしてテーバイの国を襲った国難を切り抜けようとする。最終的に破滅を迎えるペンテウス像からは、人間の持つ知の限界が、それも特に分別の点で神に及ばないものであることが見て取れるであろう。

以上のように考えてみると、*Ba.*と*OT*の間で、まず比較しうるのは主人公であるオイディプスとペンテウスである。この両者の知に対する態度に共通点があることはすでに論じた通りである。

しかし、この両者の持つ知には当然相違点もある。オイディプスは自分の出生に関わる真実を知った後に自分で両眼を潰した。これがオイディプスの破滅である。一方、ペンテウスはディオニュソスとの言葉での応酬の末、彼が自分の好奇心に負けてディオニュソスの罠にかかり、結果的に実母によって八つ裂きにされてしまう。これがペンテウスの破滅である。

オイディプスの場合は、自らの意志で自分の出生の事実を知るといふ、いわば知的な自己認識をやり遂げたのであるが、ペンテウスの場合はディオニュソスに知の点でも敗れ特段何かを成し遂げたわけではない。言わばペンテウスには救いようのない破滅が訪れたのである。したがって、オイディプスもペンテウスもともに破滅という結末を迎えているが、実際は両者には大きな差があると言える。

次に比較したいのは*OT*でのテイレシアスと*Ba.*のディオニュソスである。*OT*と*Ba.*はともに自分の知に信を置く人間が主人公となっているが、こうした性格の主人公たちを言い負かしてしまうのはテイレシアスとディオニュソスだけである。そして、その手段は武力ではなく、主人公が行使する力である「知」をあくまで対等に用いているのであり、条件の違いはあれ同じ土俵で戦っていて一向に負けることがない。こうした点からは、彼らの知は、突き詰めていけば神の領分に属するものであると考えられる。

4. 二作品での「知」を表す言葉

4. 1. 「知」を表すギリシア語の4つの系統

古典ギリシア語には「知」を表す言葉が多数あり、*OT*と*Ba.*の中でも知を表すギリシア語について多様な方法で使い分けがなされている。二作品の中で「知」を表していると考えられる主要なギリシア語を抽出し、それらの意味内容や対象とされている人物、使用件数などをまとめたものが、本論末に載せた別表1、2⁽⁸⁾である。そして、そのデータを検討することによって、*OT*でのオイディプスの持つ知の性質を考察する。

本論では「知」という概念を知的な強さという意味での「知力」や、倫理的意味での「分別」といったものを含むひろがりの大きな概念として捉えるため、ギリシア語の抽出では名詞、動詞といった品詞の区別を設けず、「知」と関連のありうる言葉全体を対象とした。

両作品に現れる知を表すギリシア語は、σοφός(形容詞「知恵がある」)の関連語からなるσοφ-

(soph-)の系統、γνώμη (名詞「知性」)の関連語からなるγνω-(gnō-)の系統、φρονεῖν (動詞「考える」)の関連語からなるφρον-(phron-)の系統、そしてοἶδα (動詞「知っている」)の関連語からなるοἶδ-(oid-)⁹⁾の系統の4つの系統の語群からなっている。

OTではοἶδ-の系統、φρον-の系統、γνω-の系統の順に使用件数が多く、Ba.ではφρον-の系統、σοφ-の系統、οἶδ-の系統の順に使用件数が多いという結果になっている。この二作品での使用件数を比較すると、差異としてはOTではοἶδ-の系統(全54件)が多いものの、σοφ-の系統(全6件)は少なく、他方Ba.では逆にσοφ-の系統(全25件)が多いものの、οἶδ-の系統(全12件)が少ないという点が挙げられる。そして、共通点としては両作品ともにφρον-の系統(OT、Ba.ともに全27件)の使用件数が多いという点が指摘できる。したがって、本論ではまずこうした使用件数の差異と共通点を手掛かりとして、知を表すギリシア語にどのような傾向が見られるのかを分析する。特に両作品でのσοφ-系統の語の使用件数の差異は、単に悲劇としての物語展開の違いを離れて何か知についての特徴を示していると思われるからである。

4. 2. σοφ-の系統

それでは以下で、4つの系統に属する語が具体的にどのような状況で使用されており、どのような知を表しているのかを原文に即して確認してみたい。最初に、今回検討する4つの系統の中で最も特徴的な傾向を示すσοφ-の系統について実際の使用例を見てみよう。

OTでのσοφ-系統の語は、Ba.と比較するとその使用件数が極端に少ない。しかし、σοφ-系統の語が使用されている場面や、その語が示す意味内容などには共通点が多い。ここでは使用例を二箇所確認してみよう。

σοφός γ' ὁμοίως κἀξ ἴσου τιμώμενος.

(そう、同じように賢く、同じように敬われていた。: OT 563)

πῶς οὖν τόθ' οὗτος ὁ σοφός οὐκ ἠῦδα τάδε;

(それではなぜ、その時あの賢い男はこれらの事を言わなかったのだ? : OT 568)

上段の563行がクレオンの台詞であり、下段の568行がオイディプスの台詞である。この二つの台詞はともに同じ場面で発話され、テイレスシアスのことをσοφόςと形容しているものである。

OTでのσοφ-系統の語は、全6件のうち508行でコロスがオイディプスを形容するために使用しているという一件の例外があるものの、その他は名詞として一般的な「知」を表す場合か、神の使いとしてのテイレスシアスを形容する場合しか使用例がない。この点がOTでのσοφ-系統の語の使用例に関する特徴である。

それでは次にBa.での使用例を検討してみよう。この劇でのσοφ-系統の語の特徴は、ディオニュソスとペンテウスとの言葉の応酬の際に皮肉として使用されている点である (Ba. 655)。

σοφός σοφός σύ, πλὴν ἂ δεῖ σ' εἶναι σοφόν.

(お前は賢い、賢いよ、お前が賢くあらねばならぬことは除いてな。)

引用したギリシア語はペンテウスの台詞である。これはペンテウスが、巧みに人間の姿に変装しているディオニュソスに立ち向かい、劣勢に立たされながらもディオニュソスに反論する箇所である。ここでのσοφόςは皮肉として使用されているが、前後の文脈を考慮すると確かに「賢い」、「知恵がある」という意味でペンテウスは発言していると考えられる。

こうしたσοφ-の系統に属する語は、*OT*と*Ba.*の二作品を「知」という観点から読み解く際に重要な意味を持つ語である。それは、σοφόςといった語は両作品では人間の知に対して使用されることはほぼなく、主に神やそれに近い立場の人間の知に対して使用される語なのである。σοφ-系統の語の使用例が*OT*で6件、*Ba.*で25件と極端に違うのは、この二作品で中心的に描かれている知が大きく異なっているからであると考えられる。

以上、ここで引用した*OT*563、568と*Ba.*655で確認したように、これら二作品でのσοφ-系統の語は神が持つような知に対して、その知の優れた様を表す語なのである。

4. 3. γνω-の系統とοἶδ-の系統

次にγνω-の系統とοἶδ-の系統について確認してみよう。*OT*ではこの二つの系統に属する語が、先にも引用した396-98行のように一つの台詞の中で並べて使用されている箇所がある(*OT* 396-98)。

ἀλλ' ἐγὼ μολών, | ὁ μὴδὲν εἰδῶς Οἰδίπους, ἔπαυσά νιν, | γνώμη κυρήσας οὐδ' ἀπ' οἰωνῶν μαθῶν.
(しかしこの私、何も知らないオイディプスがやって来て、鳥による予兆を知ることによってではなく知恵を見つけて私がスピュクスを阻止したのだ。)

下線を引いたεἰδῶς(οἶδαの完了分詞)がοἶδ-系統の語に対応するものであり、γνώμηがγνω-系統の語に対応するものである。このオイディプスの台詞からは何が読み取れるであろうか。εἰδῶςについては、ここでは否定されており、「何もターバイの状況を見聞きしていないので、私は知らない」という意味であろう。それは、ιδεῖνの派生語であるοἶδαはあくまでも知覚などを通して、経験上知っているか知らないかという状態を表す語であると考えられるからである⁽¹⁰⁾。

*OT*ではοἶδ-系統の語の使用例が合計で54件あり、この劇でのσοφ-系統合計6件、γνω-系統合計23件、φρον-系統合計27件と比較すると使用件数が多くなっている。*OT*でοἶδ-系統の語の使用件数が多い理由は、この系統の語が「知」を表すといっても単に「知っているか知らないか」といった程度の知を表す語という側面が強いためであろう。実際に別表を参照すれば、劇の後半でオイディプスが、知らせの者や羊飼いに対してοἶσθα;と二人称の疑問形で「お前は知っているか？」と尋ねる箇所が多くなっていく。

一方、ここでのγνώμηについては「知恵を見つけて阻止した」という意味であり、こちらは自分の「知性」、「判断力」を行使して行為をしたという意味であろう。この語をοἶδαと比較すると、οἶδαの方が主体性を伴わない後天的な性質の知であり、あくまでも「知っている、知識を持っている」という状態を表していると考えられるのに対し、γνώμηの方は自分で考え行為して

理解した結果の知、すなわち能動的な意味を含む知であると言えるのではないであろうか。もちろん両者は動詞と名詞という品詞の違いがあるため単純には比較できないが、概ね両者とその派生語にはこうした性質の違いがあると考えられる。

ここで、*OT*よりも使用件数は少ないものの*Ba.*で $\gamma\nu\omega$ -系統の語がどのように使用されているのかも見てみよう (*Ba.* 859-60)。

$\gamma\nu\omega\sigma\epsilon\tau\alpha\iota$ δὲ τὸν Διὸς | Διόνυσον,

(そしてペンテウスはゼウスの子ディオニュソスを知るであろう、)

これはペンテウスを手玉に取った直後のディオニュソスの台詞である。下線を引いた $\gamma\nu\omega\sigma\epsilon\tau\alpha\iota$ が $\gamma\nu\omega$ -の系統に属する語であり、ここでは「知るであろう」と動詞の未来形で使用されている。ディオニュソスはこの台詞で、これから破滅する運命にあるペンテウスについて、彼が破滅して初めて真実を認識するであろうと宣言しているのである。

*Ba.*の特徴として、810行を境にしてペンテウスが完全にディオニュソスの側に取り込まれてしまい、以後ペンテウスはディオニュソスの言われるがままに行動し破滅に至るという展開がある。そして、*Ba.*での $\gamma\nu\omega$ -系統の語はちょうどこの境の直後から初めて使用され始めるのである。810行より前の箇所では、ペンテウスの持つ知に対しては特に $\phi\rho\omicron\nu$ -と $\omicron\iota\delta$ -系統の語が多く使用されているが、入れ替わるようにして $\gamma\nu\omega$ -系統の語が使用されるようになる。こうした劇の特徴を考慮に入れると、*Ba.*でも $\gamma\nu\omega$ -系統の語は、*OT*と同様に「知性」、「判断力」を行使して状況を正しく認識するといった知を表すものであると考えられる。

4. 4. $\phi\rho\omicron\nu$ -の系統

それでは最後に、 $\phi\rho\omicron\nu$ -の系統について見てみたい。*OT*では、 $\phi\rho\omicron\nu$ -系統の語の使用頻度が513~678行にかけて展開されるオイディプスとクレオンとの対話で高くなる傾向がある。ここでは、その対話の中でのクレオンの台詞を確認する (*OT* 587-89)。

ἐγὼ μὲν οὖν οὐτ' αὐτὸς ἰμείρων ἔφην | τύραννος εἶναι μᾶλλον ἢ τύραννα δρᾶν, | οὐτ' ἄλλος ὅστις
σωφρονεῖν ἐπίσταται.

(いや、私自身、王族のように振る舞うことよりもむしろ王であることを望む者としては生まれ付いてはいないし、ソーフロネインすることができる者であれば誰でもそのようには望まないのだ。)

この引用は、クレオンが、テーバイの王権を篡奪するつもりなのではないかとオイディプスから責められる場面でのクレオンの台詞である。クレオンはこの台詞で「 $\sigma\omega\phi\rho\omicron\nu\epsilon\acute{\iota}\nu$ (思慮を巡らせること) できる者であれば、王位篡奪を望むはずはなく、まさに自分がそのような者である」と明確に言い切っているのである。

*OT*で描かれるクレオンは、知識量の点ではテイレシアスはもちろん、オイディプスにも遠く及ばない存在である。しかし、ここで確認したクレオンの台詞にも表れているように、彼はテ

イレシ阿斯との対話以降、怒りにまかせて行動するオイディプスを諫める存在でもある。このように、クレオンが冷静な判断を下すことができるのは、彼が持つ知には思慮・分別の点で優れている面があるからである。

クレオンは、この台詞の587行の箇所、φύειν（生まれつき～である）という動詞を使用して「私は、王であることを望むような者としては生まれ付いてはいない」と言っている。クレオンのこのような発言は、彼自身による省察の結果であろう。クレオンは自分がどういった人間なのかをよく理解していると言える。そして、クレオンが言うσωφρονεῖνとは、自分自身を省みるといったこうした行為を指しているものと考えられる。

以上のように考えると、σωφρονεῖνには、自己省察を行う際のように「考える」という行為が付随すると言える。ここではφρον-系統の語であっても、σω-という接頭辞の付いた言葉を確認したが、φρον-系統の語全体の特徴としても、語の意味に「考える」という主体的な行為が含まれているのである。さらに、φρον-系統の語は、言葉の意味の中に「考える」という思慮と深く関わる行為が含まれているため、思慮を巡らせた結果「正しく行動ができる」といった倫理的な意味での「分別」を表しうるものである。この点はBa.で顕著である。

実際にBa.ではφρον-系統の語の使用例として以下のようなものがある (Ba. 268-69)。

σὺ δ' εὐτροχον μὲν γλῶσσαν ὡς φρονῶν ἔχεις, | ἐν τοῖς λόγοισι δ' οὐκ ἔνεισί σοι φρένες.

(だが、あなたはフロネインしているかのようによく回る舌をお持ちであるが、その言葉のうち、あなたにはフレーンが欠けているのです。)

この箇所はテイレシアスの台詞であるが、彼は劇の序盤で頑なにディオニュソス崇拝を認めようとしない態度を示すペンテウスをこのように諫めているのである。

Ba.ではペンテウスについてφρον-系統の語が複数回使用されており、その件数は合計9件であり登場人物のなかで最も多くなっている。その9件の多くは、上述の使用例のようにペンテウスの持つ知について明確な否定ではないとしても、思慮・分別の欠如をほのめかしていることが多い。同様な表現は312行のテイレシ阿斯、332行のカドモスの台詞にも見られる。上述の使用例では、テイレシ阿斯はディオニュソス崇拝を認めないペンテウスに対して、その判断・理解力には慎重さが欠けていると考えて発言していると解される。

Ba.でのこうした使用例を見ても、φρον-系統の語は、οἶδ-系統の語と異なっており、γνω-系統の語とは能動性という点で共通する部分がありながらも、それに加えて倫理的な要素を含む語であると言える。γνω-系統の語は判断や理解に重点が置かれているのに対し、φρονεῖνは「考える」という意味を含みつつ思慮・分別といった意味にもつながっている。φρον-の系統は、両作品でも使用例が多く、さらにγνω-の系統との関連性も見出されるため、その使用には様々な場合があり4つの系統の中で最も広がりのあるものである。

4. 5. 以上の分析から分かること

以上が二作品での知を表す言葉の概略である。別表にまとめた使用件数やその語の使用されている「知の主体」などから読み取れる内容をまとめると以下のようなになる。

*OT*ではオイディプスとテイレシアスに関して、両者に対する $\gamma\nu\omega$ -系統の語と $\sigma\phi$ -系統・ $\phi\rho\nu\nu$ -系統の語との間での、「知」を表す語の使い分けに特徴がある。オイディプスが持つ知に対しては $\gamma\nu\omega$ -系統の語が使用される割合が高く、オイディプスがこれらの語を自ら使用しているケースも多い。そしてテイレシアスが持つ知に対しては $\phi\rho\nu\nu$ -系統の語が使用される割合が高く、オイディプスとは対照的に自分では一度も $\gamma\nu\omega$ -系統の語を使用していない。また*OT*で数少ない $\sigma\phi$ -系統の語の使用例のうち、半数がテイレシアスに対して使用されているという点が挙げられる。

また*Ba.*ではディオニュソスとペンテウスについて、両者に対する「知」を表す言葉の使い分けに特徴がある。ディオニュソスが持つ知に対しては、 $\sigma\phi$ -系統の語が多く使用され、そのうちのほぼすべてが他者によって使用される形になっている。また、ディオニュソスは $\gamma\nu\omega$ -系統の語を自分で使用してはいるが、ディオニュソスに対して使用されているケースはない。そして、ペンテウスが持つ知に対しては、 $\phi\rho\nu\nu$ -系統の語が多く使用され、それらはほぼすべて他者がペンテウスに対して使用しているケースである。

以上の結果から言えるのは、神であるディオニュソスや神の使いであるテイレシアスの知については、 $\sigma\phi$ -系統の語が多く使用されるということ。他方、 $\gamma\nu\omega$ -系統の語は使用していても、また相手から使用されていてもその頻度は低いということであろう。すなわち $\sigma\phi$ -系統の語は、主として神の領域に属する知に使用され、 $\gamma\nu\omega$ -系統の語は主に人間に対して、ただし、ただならぬ知に至った人間に対して使用されているのではないか。また、ペンテウスは知に関しては他者から知の点で非難されたり、ディオニュソスからおだてられたりしているだけである。この点からもペンテウスの持つ知は地に足の付かないものであると言えよう。

5. おわりに

本論では主に原文テキストでの知を表すギリシア語の分析によって、オイディプスが持つ知について論じてきた。そして、分析の結果オイディプスの知について特徴的な点を指摘することができた。すなわち、本論で検討した知を表すギリシア語の4つの系統の中で、*OT*では $\sigma\phi$ -と $\gamma\nu\omega$ -の系統の間では対立が見られたのである。

$\sigma\phi$ -系統の語は、並行して分析対象とした*Ba.*でも神、もしくは神に近い存在が持つ知について使用される語であり、 $\gamma\nu\omega$ -、 $\phi\rho\nu\nu$ -、 oid -系統の語とは明確な違いがあると言える。今回の分析結果から少なくとも古典期のギリシア文学では、使用されるギリシア語のレベルでも人間の知と神の知との間で区別がなされていたと理解できる。

人間の知と神との関係という点で、σοφ-系統の語が表す知が最上位の知であると考えれば、オイディプスであってもそのような知を持っていないことになる。オイディプスが懸命に探し求めた自身の出生の秘密は、普通の人間では到達しえない「知」であった。したがって、どのような知者であっても、人間である以上は容易に達しえない「知」の存在が古典期のギリシア文学では想定されていたのである。

本論で確認してきたように、人間が通常達しうる「知」はγνω-, φρον-, οιδ-の系統に属する知であり、σοφ-の系統に属する知はこれら三つの系統の知とは一線を画すものである。実際にオイディプスは、自身の出生の秘密という神やテイレシアスしか知ることがなかった知に進んで到達し、自ら盲目になるという代償を払った。これらの点を考慮に入れると、古典期のギリシア文学では「知」に関して、あらゆる領域の知を自由に手に入れ、操るという行為は、本質的に神のみに許されていたものであったと考えられるのである。

注

- (1) 本論では、知恵の働きという意味での「知力」やその知力の行使にあたって分別があるか否かといった倫理的意味を含めて広く「知」という言葉を用いる。
- (2) 引用したギリシア語原文の和訳については、原則として拙訳を付すこととする。
- (3) 38行の προσθήκη θεοῦ は「神の助けによって」という意味になるが、この言葉のためにオイディプスが神の力によってスピックスを退治したと解する必要はないであろう。Finglass (2018), 179 のように、神とオイディプス双方の力を想定するべきである。
- (4) この「知恵を見つけて」という部分はギリシア語原文での γνώμη κυρήσας の和訳になるが、ここでの γνώμη をどのような「知」と解するのかは厳密な検討が必要である。理由としては、κυρήσας (κυρέω のアオリスト分詞) が与格を取る場合 meet with (遭遇する) といった意味になり、厳密に解釈するならばオイディプスがたまたまスピックスの謎を解く「答え」、すなわち「知」を得たに過ぎないとも解釈できるからである。この点について、Lloyd-Jones(1994, 364-65)では‘I hit the mark by native wit,’ 「生まれ持った知力＝機知によって私が(答えを)当て、」と訳されており、岡(訳, 岩波, 1990年, 27頁)では「知恵で答えを当て、」となっている。Lloyd-Jones の解釈に従えば、オイディプスが答えを見つけたことに関しては主体的な知性を働かせたという点は弱まりそうである。しかし、Finglass(2018, 296-97)は、OT38行でのスピックス退治に関する神官の発言にある προσθήκη θεοῦ「神の助けによって」という要素が、その後の文脈から判断する限りオイディプス本人の認識からは抜け落ちていると指摘している。本論ではこの指摘を重視し、オイディプス本人はスピックス退治に際して神の助けを意識していなかったと考え、γνώμη κυρήσας はオイディプス本人の主体的な知的行為の結果、知恵を見つけたと解釈する。
- (5) 本論では「分別がある」という状態を、ひろく、「その時々置かれた状況を『知』を用いて理性的に判断し正しい行動を取ることができる」という状態を指すと定義する。
- (6) この原文は単純な構文であるため、逸身(1992年)による日本語訳と同じ訳を採用した。
- (7) Dodds (1960), 121.
- (8) 別表参照。ギリシア語の抽出方法については、まず原典テキストにあたり二作品で広く「知」を表しうるギリシア語を特定した。そして、それらのギリシア語を TLG を用いて検索した。なお、知を表しうるギリシア語を使用しているにもかかわらず、前後の意味内容から知とは関係のない意味で使用されていると判断した場合は使用件数のカウントから除外している。
- (9) 二作品のギリシア語原文テキストを参照すると、οἶδα の活用形やその派生語も知を表す言葉として使用されていると判断できる。この οἶδα は不規則活用動詞であるため検索では oid の他にも、関連する eid, eiso, isq, ist, oisq, vd (v は η を表す) での検索を試みた。本論ではこれらの検索結果すべてを οιδ-の系統としてまとめて扱うこととする。

(10) οἶδα は *LSJ* を参照すると *know, have knowledge of, be acquainted with* といった訳がある。この訳語では単に「知っている」、「～について知識がある」といった意味になるが、F. Ellendt による *Lexicon Sophocleum* では、*sciendi, quae oculis auribus vel experiendo vel discendo cognoveris.* というラテン語訳が付されている。こちらの訳語からは「知っている」といっても、目や耳といった知覚を通して知ったという意味が読み取れる。この意味は、ここで *OT* の使用例で確認した οἶδα の意味と合致する。

古典テキスト

Euripides, *Fabulae: Tomus III*, ed. by J. Diggle (Oxford: Clarendon Press, 1994).

Sophocles, *Fabulae*, ed. by H. Lloyd-Jones and N. G. Wilson (Oxford: Clarendon Press, 1990).

Sophocles, *Sophocles I*, ed. and trans. by H. Lloyd-Jones (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1994; repr. 1997).

主要参考文献

Dodds, E. R. (ed.), *Euripides, Bacchae* (Oxford: Oxford University Press, 1960; repr. 1979).

Ellendt, F., *Lexicon Sophocleum* (Berlin, 1872; repr. Hildesheim, 1965).

Finglass, P. J. (ed. and trans.), *Sophocles: Oedipus The King* (Cambridge: Cambridge University Press, 2018).

Jebb, R. C. (ed. and trans.), *Sophocles: Plays, Oedipus Tyrannus* (Cambridge: Cambridge University Press, 1893; repr. London: Bristol Classical Press, 2004).

Knox, B. M. W., *Oedipus at Thebes* (New Haven, Yale University Press, 1957).

Liddell, H. G. and Scott, R., *A Greek-English Lexicon*, rev. by H. S. Jones (Oxford, 1940).

Segal, C., *Oedipus Tyrannus: Tragic Heroism and the Limits of Knowledge* (Oxford: Oxford University Press, 2nd ed. 2001).

Winnington-Ingram, R. P., 'The *Oedipus Tyrannus* and Greek Archaic Thought' in *Twentieth Century Interpretations of Oedipus Rex*, ed. by O'Brien, M. J. (New Jersey, 1968), 81-89.

逸身喜一郎, 『ソフォクレス「オイディプース王」とエウリーピデース「バッカイ」 - ギリシャ悲劇とギリシャ神話 - 』(岩波書店, 2008年) .

逸身喜一郎 (訳), 『バッカイ - バッコスに憑かれた女たち - 』, 『ギリシア悲劇全集』第9巻 (岩波書店, 1992年) .

岡道男 (訳), 『オイディプース王』, 『ギリシア悲劇全集』第3巻 (岩波書店, 1990年) .

【別表1】『オイディプス王』における「知」を表す語の一覧表

抽出の結果を以下の通り ‘σούρ’, ‘γνώσ’, ‘ᾔπων’, ‘ᾔποι’, ‘ᾔδω’ の合計4通りのパターンに集約し、TLGで検索を試みた。
 ※項目「その知の主体」は、左隣の「該当ギリシア語」が指し示す「知」を【持っている】人物のことである。右側に「使用状況」が「否定」であれば【持っていない】ことになる。
 ※例えば「該当ギリシア語」σούρος、「その知の主体」オイディプス、「使用状況」肯定であれば、「発話者」がオイディプス(とその知)のことをσούροςであることになり、「使用状況」については、ギリシア語がσούροςなどの否定辞と併せて用いられていなければ明確に否定を意味するので「否定」とした。その他は前後の文脈によって判断している。
 なお、「使用状況」については「品詞」が名詞に該当する場合は劇の中で直接名詞自体を肯定／否定する状況は特定しづらいので判断しないこととした。

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
484	σούρος	テイレシ阿斯	コロス	形容詞	肯定	
502	σοφία	コロスの格言	コロス	名詞	-	
502	σοφιστῶν	コロスの格言	コロス	名詞	-	
508	σοφός	オイディプス	コロス	形容詞	肯定	
563	Σοφός	テイレシ阿斯	クレオン	形容詞	肯定	
568	σοφός	テイレシ阿斯	オイディプス	形容詞	肯定	
合計						6件

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
58	γνοῦρά	オイディプス		形容詞	肯定	
58	ἐγνωτά	オイディプス		形容詞	肯定	
361	γνωστόν	オイディプス		形容詞	肯定	
396	γνωτόν	テイレシ阿斯	オイディプス	形容詞	肯定	
398	γνώμη	オイディプス		名詞	-	
403	ἐγνώσ	テイレシ阿斯	オイディプス	動詞/分詞	肯定	
524	γνώμη	オイディプス	コロスの長	名詞	-	
525	γνώμας	クレオン		名詞	-	
527	γνώμη	オイディプス	コロスの長	名詞	-	
538	γνωστοίη	オイディプス		動詞/分詞	否定	
601	γνώμη	クレオン		名詞	-	
608	οἰτιγῶν	オイディプス	クレオン	名詞	-	
613	γνώμη	オイディプス	クレオン	動詞/分詞	肯定	
678	ἐγνωτός	オイディプス	クレオン	形容詞	否定	
681	ᾔπως	オイディプス	コロスの長	形容詞	肯定	秘密にはオイディプスの「発言」を対象として
687	γνώμην	コロスの長	オイディプス	名詞	-	
1087	γνώμας	コロスの長		名詞	-	
1115	ἔγνωκ'	コロスの長	オイディプス	動詞/分詞	肯定	
1117	ἔγνωκα	コロスの長		動詞/分詞	肯定	
1133	ἔγνωτ'	羊飼ひ	知らせの者	形容詞	否定	
1274	γνωστῆρα	オイディプス	第二の知らせの者	動詞/分詞	肯定	
1325	γνωσκω	オイディプス		動詞/分詞	肯定	
1348	γνώμαι	オイディプス	コロスの長	動詞/分詞	肯定	
合計						23件

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
67	ᾔπωντιδός	オイディプス		名詞	-	
170	ᾔπωντιδός	テーバイ人全員	コロス	名詞	-	
302	ᾔπωνεῖς	テイレシ阿斯	オイディプス	動詞/分詞	肯定	
316	ᾔπωνεῖν	テイレシ阿斯		動詞/分詞	肯定	
317	ᾔπωνόντων	テイレシ阿斯		動詞/分詞	肯定	
326	ᾔπωνόν	テイレシ阿斯	オイディプス	動詞/分詞	肯定	
328	ᾔπωνεῖτ'	テーバイ人全員	テイレシ阿斯	動詞/分詞	否定	
403	ᾔπωνεῖτε	テイレシ阿斯の裏の面頬	オイディプス	動詞/分詞	肯定	
436	ἐμᾔπωνεῖς	テイレシ阿斯		形容詞	肯定	
462	ᾔπωνεῖν	オイディプス		動詞/分詞	否定	
500	ᾔπωνεῖτε	クレオン	クレオン	動詞/分詞	否定	
552	ᾔπωνεῖτε	クレオン	オイディプス	動詞/分詞	肯定	
569	ᾔπωνόν	クレオン		動詞/分詞	否定	
570	ᾔπωνόν	クレオン	オイディプス	動詞/分詞	肯定	
589	σᾔπωνεῖν	クレオン		動詞/分詞	肯定	
600	ᾔπωνόν	クレオン		動詞/分詞	肯定	

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
617	φρονεῖν	オイテイプス	コロスの長	動詞/分詞	肯定	
626	φρονοντρά	オイテイプス	クレオン	動詞/分詞	否定	
649	φρονισμας	オイテイプス	コロス	動詞/分詞	肯定	
662	φρονισμῶν	コロス		名詞		
690	φρονισμῶν	コロス		形容詞	否定	
1038	φρονεῖ	知らせの者		動詞/分詞	肯定	
1066	φρονονερά	イオカステ		動詞/分詞	肯定	
1078	φρονεῖ	イオカステ	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	
1390	φρονοντῆ	オイテイプス		名詞	-	
1520	φρονονῶ	クレオン		動詞/分詞	否定	
合計						27件

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
*37	ἐπιδαῖος	オイテイプス	神官	動詞/分詞	否定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*43	οἰσθῆ	オイテイプス	神官	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oiscq' によって抽出している
59	οἰδ'	オイテイプス		動詞/分詞	肯定	
*86	κετε	テ-バイ人全員	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'ist' によって抽出している
*84	εισομμοῦα	テ-バイ人全員	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eiscs' によって抽出している
105	*Eύουδ'	オイテイプス		動詞/分詞	肯定	
*119	ειδοῦς	カドモスの従者たち	クレオン	動詞/分詞	否定	この語は検索 'eid' によって抽出している 秘密にはライオイス殺害の「真相」のことを指す。
*129	ἐπιδαῖονα	テ-バイ人全員	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	
225	κείροισεν	テ-バイ人全員	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	
230	οἰδεν	テ-バイ人全員	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	
*250	ζυναιδοῦς	オイテイプス		動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*318	ειδοῦς	テイレンシアス		動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*330	ζυναιδοῦς	テイレンシアス	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*346	ἰεθῶ	テイレンシアス	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
*397	ειδοῦς	オイテイプス		動詞/分詞	否定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*415	οἰσθ'	オイテイプス	テイレンシアス	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'oisc' によって抽出している
*499	ειδοῦτες	ゼウスとアポロン	コロス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
527	οἰδα	コロスの長		動詞/分詞	否定	
530	οἰδ'	コロスの長		動詞/分詞	否定	
*543	Οἰσθ'	オイテイプス	クレオン	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'oisc' によって抽出している
569	οἰδ'	クレオン		動詞/分詞	肯定	
*570	οἰσθῆ	クレオン	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oiscq' によって抽出している
571	οἰδῶ	クレオン		動詞/分詞	肯定	
*574	οἰσθ'	オイテイプス	クレオン	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oisc' によって抽出している
*654	Οἰσθ'	コロス	オイテイプス	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'oisc' によって抽出している
655	Οἰδα	コロス		動詞/分詞	肯定	
*690	ἰεθῶ	オイテイプス	コロス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
*704	ζυναιδοῦς	オイテイプス	イオカステ	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*745	ειδῶναι	オイテイプス		動詞/分詞	否定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*959	ἰεθῶ	オイテイプス	知らせの者	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
*993	ειδῶναι	知らせの者		動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*1008	οἰσθῆ	オイテイプス	知らせの者	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'oisc' によって抽出している
*1014	οἰσθῆ	オイテイプス	知らせの者	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oiscq' によって抽出している
1038	ἰεθῶ	知らせの者		動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
*1041	κείροισθα	知らせの者	オイテイプス	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'oiscq' によって抽出している
*1046	ειδῶτ'	テ-バイ人	知らせの者	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
1048	κείροισδε	オイテイプスの従者たち	オイテイプス	動詞/分詞	肯定	
*1117	ἰεθῶ	オイテイプス	コロスの長	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
*1128	οἰσθῆ	羊飼	オイテイプス	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'oisc' によって抽出している
1133	οἰδ'	知らせの者		動詞/分詞	肯定	
1134	κείροισεν	羊飼	知らせの者	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oiscq' によって抽出している
*1142	οἰσθῆ	羊飼	知らせの者	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'eid' によって抽出している
*1151	ειδοῦς	知らせの者	羊飼	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eid' によって抽出している
*1181	ἰεθῶ	オイテイプス	羊飼	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
*1232	ῥῆθμεν	コロス	コロスの長	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'vd' によって抽出している

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
1251	οἶδ'	第二の知らせの者		動詞/分詞	肯定	
1366	οἶδ'	コロス		動詞/分詞	否定	
1371	οἶδ'	オイディプス		動詞/分詞	肯定	
*1438	ἴεθ'	クレオン	クレオン	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
1455	οἶδα	オイディプス		動詞/分詞	肯定	
*1517	Οἶσθ'	クレオン	オイディプス	動詞/分詞	疑問	この語は検索 'oisq' によって抽出している
*1517	ἀκούει	クレオン		動詞/分詞	肯定	この語は検索 'eko' によって抽出している
*1525	ἴδει	オイディプス	コロス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'vd' によって抽出している
合計						54件

※検索には該当しても次の箇所については語の意味、文意から検討して対象外とした。8, 14, 18, 32, 36, 40, 41, 78, 297, 327, 397, 405, 435, 495, 513, 639, 646, 739, 914, 925, 947, 1073, 1091, 1194, 1208, 1252, 1365, 1422, 1524 (行)

【別表2】「ハッカイ」における「知」を表す語の一覧表

抽出の結果を以下の通り 'σοφ-', 'γνω-', 'γνω-', 'φρον-', 'οἶδ-' の合計4通りのパターンに集約し、TILGで検索を試みた。
 ※項目「その知の主体」は、左隣の「該当ギリシア語」が指し示す「知」を「持っている／知っている」人物のことである。右側に「使用状況」が「肯定」であれば「持っている／知らない」ということになる。
 例えば「該当ギリシア語」σοφός、「その知の主体」オイディプス、「使用状況」肯定であれば、「発話者」がオイディプス(とその知)のことをσοφόςであると形容していることになる。
 「使用状況」については、ギリシア語がοὐなどの否定辞と併せて用いられれば明確に否定を意味するので「否定」とした。その他は前後の文脈によって判断している。
 なお、「使用状況」については「品詞」が名詞に該当する場合は劇の中で直接名詞自体を肯定/否定する状況は想定しづらいので判断しないこととした。

'σοφ-' (TILG検索 'sof')

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
30	σοφισταῖοθ'	カドモス	ディオニュソス	名詞	-	
179	σοφῶν	テイレスアス	カドモス	形容詞	肯定	
179	σοφῶν	テイレスアス	カドモス	形容詞	肯定	
186	σοφός	テイレスアス	カドモス	形容詞	肯定	
200	σοφιστήεσθαι	神々	テイレスアス	動詞/分詞	否定	
203	σοφῶν	カドモスの格言		形容詞	肯定	テイレスアスが格言として発話
266	σοφός	人間一般	テイレスアス	形容詞	肯定	コロスが格言として発話
395	σοφῶν	人間一般	コロス	形容詞	肯定	コロスが格言として発話、名詞が否定的文脈で使用されている
395	σοφία	人間一般	コロス	名詞	-	
427-428	σοφῶν	人間一般	コロス	形容詞	肯定	コロスが格言として発話
480	σοφά	ペンテウス	ディオニュソス	形容詞	肯定	皮肉として発話
489	σοφιστήτων	ディオニュソス	ペンテウス	名詞	-	皮肉として発話
641	σοφῶν	人間一般	ディオニュソス	形容詞	肯定	ディオニュソスが格言として発話
4 post 651	σοφός	ディオニュソス	ペンテウス	形容詞	肯定	皮肉として発話
4 post 651	σοφός	ディオニュソス	ペンテウス	形容詞	肯定	皮肉として発話
4 post 651	σοφῶν	ディオニュソス	ペンテウス	形容詞	肯定	皮肉として発話
5 post 651	σοφός	ディオニュソス	ペンテウス	形容詞	肯定	皮肉として発話
824	σοφός	ディオニュソス	ペンテウス	形容詞	肯定	皮肉ではない
839	σοφότερον	ペンテウス	ディオニュソス	形容詞	肯定	皮肉として発話
877	σοφῶν	人間一般	コロス	形容詞	肯定	コロスの疑問として発話
897	σοφῶν	人間一般	コロス	形容詞	肯定	コロスの疑問として発話
1005	σοφῶν	人間一般	コロス	形容詞	肯定	コロスが格言として発話
1151	σοφώτατον	人間一般	使者2	形容詞	肯定	コロスが格言として発話
1190	σοφός	ディオニュソス	アガウエー	形容詞	肯定	使者2が格言として発話
1190	σοφός	ディオニュソス	アガウエー	形容詞	肯定	
合計						25件

※検索には該当しても次の箇所については語の意味、文意から検討して対象外とした。384, 557 (行)

'γνω-' (TILG検索 'gnw')

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
859	γνωστῆαι	ペンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	
885	ἐγνωστοῖσιν	人間一般	コロス	名詞	-	コロスが格言として発話
892	γνωσθεῖν	人間一般	コロス	動詞/分詞	否定	コロスが格言として発話
997	γνώσται	テーバイ人全員	コロス	名詞	-	
1002	γνώσται	人間一般	コロス	名詞	-	
1088	ἐγνωστοῖσιν	カドモスの娘達	使者2	動詞/分詞	肯定	コロスが格言として発話
1116	γνωσθεῖσιν	アガウエー	使者2	動詞/分詞	肯定	
1285	γνωστῆαι	アガウエー	カドモス	動詞/分詞	肯定	
1342	ἐγνωθ'	テーバイ人全員	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
1346	ἐγνώκειεν	アガウエー		動詞/分詞	肯定	アガウエーではなくカドモスが自身に対して発言しているという解釈もある
合計						10件

※検索には該当しても次の箇所については語の意味、文意から検討して対象外とした。1039, 1255(行)

'opov'-(TLC)検索 'from' ((*語根/語幹の異なる同系統の語も含む))

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
196	opovothiev	テイレシアス・カドモス		動詞/分詞	肯定	
268	opovon	ベンテウス	テイレシアス	動詞/分詞	肯定	
312	opovēn	ベンテウス	テイレシアス	動詞/分詞	肯定	
314	opovontēn	ディオニュソス	テイレシアス	動詞/分詞	肯定	
316	opovontēn	人間一般	テイレシアス	動詞/分詞	肯定	テイレシアスが格言として発話
329	opovonēis	テイレシアス	カドモス	動詞/分詞	肯定	
332	opovōn	ベンテウス	カドモス	動詞/分詞	肯定	
332	opovēic	ベンテウス	カドモス	動詞/分詞	否定	
*387	opovontōs	コロスの格言		名詞	-	この語は検索 'fros' によって抽出している
390	opovēn	人間一般	コロス	動詞/分詞	肯定	コロスが格言として発話
396	opovēn	人間一般	コロス	動詞/分詞	否定	コロスが格言として発話
480	opovēn	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	否定	
483	opovōnti	バツカイ	ベンテウス	動詞/分詞	否定	
504	opovōnōn	ディオニュソス		動詞/分詞	肯定	
*504	opovontēn	ベンテウス	ディオニュソス	形容詞	否定	この語は検索 'fros' によって抽出している
641	opovon'	人間一般	ディオニュソス	形容詞	肯定	ディオニュソスが格言として発話
686	opovontōs	バツカイ	使者1	副詞	肯定	
851	opovōn	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	
853	opovēn	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	
940	opovontōs	バツカイ	ディオニュソス	形容詞	肯定	
1002	opovōnta	ベンテウス	コロス	名詞	-	
1123	opovōntē	アガウエー	使者2	動詞/分詞	否定	
1123	opovēn	アガウエー	使者2	動詞/分詞	肯定	
1150	opovovontēn	人間一般	使者2	動詞/分詞	肯定	使者2が格言として発話
1259	opovontōntai	アガウエー	カドモス	動詞/分詞	肯定	
*1301	opovontōis	アガウエー		名詞	-	この語は検索 'fros' によって抽出している
1341	opovovontēn	テーバイ人全員	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	
合計						27件

※検索には該当しても次の箇所については語の意味、文意から検討して対象外とした。199, 237, 404, 503, 637, 1122, 1325(行)

'oid'-(TLC)検索 'oid' ((*語根/語幹の異なる同系統の語も含む))

該当行数	該当ギリシア語	その知の主体	発話者 ※空欄は「知の主体」と同一人物が発話	品詞	使用状況(肯定/否定/疑問)	備考
*74	oidōs	バツカイ		動詞/分詞	肯定	
174	oidē	テイレシアス	コロス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oid' によって抽出している
*358	oidōta	ベンテウス	テイレシアス	動詞/分詞	否定	この語は検索 'oisq' によって抽出している
*462	oidōta	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oisq' によって抽出している
463	oid'	ベンテウス		動詞/分詞	肯定	
*472	oidēvta	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oid' によって抽出している
*474	oidēvta	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'oid' によって抽出している
*506	oidō'	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	否定	この語は検索 'oisq' によって抽出している
*808	oidōi	ベンテウス	ディオニュソス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
*816	oidōi	ディオニュソス	ベンテウス	動詞/分詞	肯定	この語は検索 'isq' によって抽出している
1269	oidōa	アガウエー		動詞/分詞	否定	
1367	oidōa	カドモス		動詞/分詞	否定	
合計						12件

※検索には該当しても次の箇所については語の意味、文意から検討して対象外とした。400(行)